

関連する『つまずきポイント』

- ③文や文章の構成・構造をとらえること
- ④文章の要旨・主題をとらえること

読むこと領域

- 文章の「構成や構造」「要旨や主題」をとらえること
- 文章を読んで考えたことを伝え合い、自分の考えを深めること

に関するつまずき解消に向けた系統的な取組

上郡町立山野里小学校の実践

第6学年

登場人物の相互関係や心情、場面についての変化を読み、本や文章を読んで考えたことについて、自分の考えを広げたり深めたりすること

第5学年

要旨や、事実と感想、意見などとの関係をおさえ、自分の考えを明確にしながら読み、本や文章を読んで考えたことについて、自分の考えを広げたり深めたりすること

第4学年

「対比」「まとめ」など段落相互の関係を考えて読み、筆者の工夫に気付き、自分の経験や知識と関連付けて読んだり交流したりし、読みを深め広げること

第3学年

場面の移り変わりに注意しながら叙述をもとに想像して読み、一人一人の感じ方に違いがあることに気付くこと

第2学年

時間的な順序や事柄の順序を考えながら、内容の大体を読み、文章の内容と自分の経験を結び付けて、自分の考えをまとめること

第1学年

場面の様子について、想像を広げながら読み、文章の内容と自分の経験を結び付けて、自分の考えをまとめること

身に付けさせたい力の系統

各段階におけるつまずき

高学年

(5・6年)

- (物語文)話の内容を読むだけでなく、作者が伝えたかったことに、自分の考えや思いを関連付けて読むことができる。
- (説明文)キーワードやキーセンテンスを根拠に、文章の構成や構造・説明の工夫を読み取ることができる。

- (物語文)登場人物の心情や情景の変化から、作品に込められた思いを読み取り、自分の考えを関連付けて読み深めることができない。
- (説明文)本文中の事例やそれに対する意見を整理し、文章の構成・構造をとらえることができない。

中学年

(3・4年)

- (物語文)場面の移り変わりに注意しながら、叙述をもとに、登場人物の性格や気持ちの変化などを想像して読むことができる。
- (説明文)段落相互の関係に注意して、文章構成を考えたり要点をまとめたりできる。

- (物語文)場面の移り変わりに注意して、叙述をもとに想像して読むことができない。
- (説明文)内容のまとめりごとに段落を分けて書いたり、キーワードやキーセンテンスを抜き出して要点をまとめたりできない。

低学年

(1・2年)

- (物語文)各場面における中心人物の行動を捉え、想像を広げながら読むことができる。
- (説明文)文章構成の特徴を知り、問いに対する答えの部分を読み取ったり、自分の経験と結び付けて考えをもったりできる。

- (物語文)中心人物の行動から、そこに込められた心情を、イメージ豊かに想像できない。
- (説明文)問いとそれに対する答えの部分を見つけ、それに対する自分の考えを表現できない。

つまずき解消に向けた取組の視点

①「書く活動」を学習活動の過程に効果的に位置付ける。

- 立ち止まって自分の言葉を駆使して考えたり、考えをまとめたりすることができるようになる。
- 課題に正対し、全員が考えをもつことができるようになる。
- 思考が可視化され、思考過程を残し共有することができるようになる。

②「書く活動」をいかしながら「練り合いの場」や「振り返りの場」を設定する。

- 意見を交わす中で、「友達の考え」と「自分の考え」を比べ、思考を深めたり広げたりできるようになる。

読むこと①

第1学年

場面の様子について、想像を広げながら読み、文章の内容と自分の経験を結び付けて、自分の考えをまとめること

つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られませんか？～

自分の経験と結び付けて想像豊かに読み、自分の考えをまとめたり広げたりできない。

気持ちを想像する時、表面的な感情表現のみになっている。

浅い読みにとどまっている。

エルフへ
エルフは世界でい
ちばんすばらしい
犬だよ。
まい日いっしょに
あそんでたのしかっ
たね。
エルフがしんでし
まってかなしいよ。

教科書の記述をそのまま書いている。

実践の概要

単元名

おはなしのおみせやさんごっこをしよう

『ずうっと、ずっと、大すきだよ』光村図書

目標 登場人物の言動を中心に想像を広げ、その時の中心人物の気持ちを感じながら読むことができる。

- 内容
- 場面ごとに中心人物の言動を根拠にして、その時の気持ちを想像してワークシートに書き、自分の考えをまとめる。
 - 登場人物に手紙を書いて交流し、自分と友達との感じ方の共通点や相違点に気づき、考えを広げたり、深めたりする。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

	学習内容 (単元名)	つまずきの実態
第6学年	自分の感じたことを、朗読で表現しよう	作者の思いを読み取るだけになって、自分の経験や思いを関連付けて、読みを深めることができない。
第5学年	説明の仕方の工夫を見つけ、話し合おう	<ul style="list-style-type: none"> 本文をもとに文章の構成・構造をとらえられない。 自分の考えを述べるときに、自分の知識や経験と結び付けながら説明することができない。
第4学年	段落どうしの関係をとらえ、説明の仕方について考えよう	段落相互の関係を考えたり、叙述を自分の経験や知識と関係付けて主体的に読み深めたりできない。
第3学年	心にのこったことを、自分の言葉で表そう	伝えたいことを条件に合わせて、まとめて書くことができない。
第2学年	知っていることとつなげて読もう	長文になると、「問い」に対する「答え」の部分が見分けられない。
第1学年	おはなしのおみせやさんごっこをしよう	自分の経験と結び付けて想像豊かに読み、自分の考えをまとめたり広げたりできない。

単元末の目指す姿

- 友達と交流する中で、なぜそう思うかそのわけを本文の中に見出したり、自分の経験と結び付けて考えたりできるようになる。
- 自分だけでは気付かなかったことに思いが向き、新しい考えを得たことに「なるほど」と喜び、他にはどうだろうかと考えを広げることができるようになる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ①

構造的な板書をデザインする。

活動のねらい ▶ 1時間の流れが視覚的にわかるようにデザインすることによって、児童の想像を誘い、広げ、中心人物の気持ちを豊かに想像させることができる。

板書

♡カードの貼り方を工夫し、「エルフ」に集中していた「ぼく」の気持ちが横に広がったことが想像できる。

紙板書を活用し、集中して書くことと思考の焦点化を図る。

カードに書くことにより、キーワードを強調する。



「めあて」との整合性がある「まとめ」にする。

自分の言葉で発言した練り合いを中心に書く。

心情曲線や矢印により、「ぼく」の気持ちの変容がわかる。

挿絵を2枚に厳選し、高低差をつけて貼ることにより思考を支える。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ②

登場人物へ手紙を書き、友達と交流する活動を行う。

活動のねらい ▶ キーワードに着目しながら、自分の考えや想像を広げる。

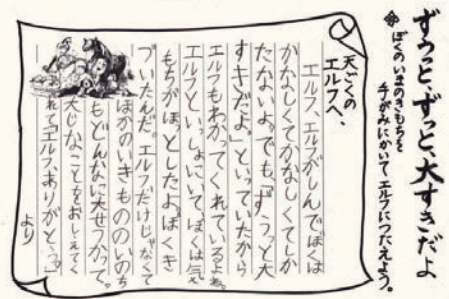
ここがポイント

- キーワードやそれにつながる言葉を教師と一緒にワークシートに書かせることで、登場人物の気持ちを想像する視点をもたせる。
- ワークシートをもとに手紙を書く。友達と交流する際には、キーワードや登場人物の心情、自分の考えが表れているかなど、交流する視点について板書を用いて確認する。

授業の様子



なるほど、だからエルフに「ありがとう」と思っているんだね。ぼくもそれを書き足すよ。



(期待される児童の姿)

友達と交流することによって様々な感じ方があることを知り、なるほどと思ったり、反対したりして、自分の考えを広げたり深めたりさせることができる。

読むこと①

第2学年

時間的な順序や事柄の順序を考えながら、内容の大体を読み、文章の内容と自分の経験を結び付けて、自分の考えをまとめること

つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られませんか？～

長文になると、「問い」に対する「答え」の部分が的確に見分けられない。

本文

②あそび方の一つに、「てつぼうよりむこうににげてはだめ。」など、にげてはいけないところをきめるものがあります。

T：②段落の遊び方はどんな遊び方と書いてありますか。
C：「鉄棒より向こうに逃げてはだめという遊び方です。」

「問い」が、「どんな遊び方があるのでしょうか。」であるので、あそび方というキーワードには気付いているが、本文の「 」の中は1例で、最後のものという言葉で置き換えてあることに気付いていない。

実践の概要

単元名

知っていることとつなげて読もう

『おにごっこ』光村図書

目標 説明的文章の典型である、「話題提示－事例の列挙－まとめ」という構成を理解し、「問い」に対する「答え」の部分を読み取りながら、「まとめ」の中の大切な文章がわかる。

- 内容
- 事例の中の「答え」の部分、カギになる言葉をポイントに読み取っていく。
 - 経験とつなげて「答え」の部分を読み取りながら、内容に対する自分の意見を発表する。
 - 「まとめ」の部分の中の大切な文章を考える。
 - 自分でも遊びの説明をする文章を書いてみる。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

学習内容（単元名）		つまずきの実態
第6学年	自分の感じたことを、朗読で表現しよう	作者の思いを読み取るだけになって、自分の経験や思いを関連付けて、読みを深めることができない。
第5学年	説明の仕方の工夫を見つけ、話し合おう	<ul style="list-style-type: none"> 本文をもとに文章の構成・構造をとらえられない。 自分の考えを述べるときに、自分の知識や経験と結び付けながら説明することができない。
第4学年	段落どうしの関係をとらえ、説明の仕方について考えよう	段落相互の関係を考えたり、叙述を自分の経験や知識と関係付けて主体的に読み深めたりできない。
第3学年	心にのこったことを、自分の言葉で表そう	伝えたいことを条件に合わせて、まとめて書くことができない。
第2学年	知っていることとつなげて読もう	長文になると、「問い」に対する「答え」の部分が的確に見分けられない。
第1学年	おはなしのおみせやさんごっこをしよう	自分の経験と結び付けて想像豊かに読み、自分の考えをまとめたり広げたりできない。

単元末の目指す姿

- 「問い」に対する「答え」の部分を読み取るときに、カギとなる言葉をポイントに読み進めることができるようになる。
- 「答え」の部分を読み進めるに従い、「まとめ」の中の筆者の伝えようとしている文章がわかるようになる。

つまづき解消に向けた指導の工夫 ①

キーワードをもとに「問い」に対する「答え」の部分を見つける活動を行う。

活動のねらい▶ 指示語や接続語等に注目して説明の部分と「答え」の部分を見分けることができる。

ここが
ポイント

- 「一つに」 「～があります」 など、説明の部分と「答え」の部分を見分けるためのキーワードについて、探し方を全体で確認した後、各自で探させる。
- 児童が探したキーワードを全体で出し合い、「どのような箇所で使われているか」「他に同じように使われているところはないか」などの発問を通して分類・整理しながら、説明の部分と「答え」の部分を見分ける視点を明確にする。

授業の様子



他にも「～もあります」と書いてあるところがあるよ。ここも「遊び方」が書いてあるのかな。

「にげてはいけないところをきめるものがあります」の「～があります」と書いているので、ここが「遊び方」の部分だと思います。

(期待される児童の姿)

指示語や助詞・文末・接続語・何度も使われている言葉などのポイントに基づいて考え、「答え」の部分を見つけることができる。

つまづき解消に向けた指導の工夫 ②

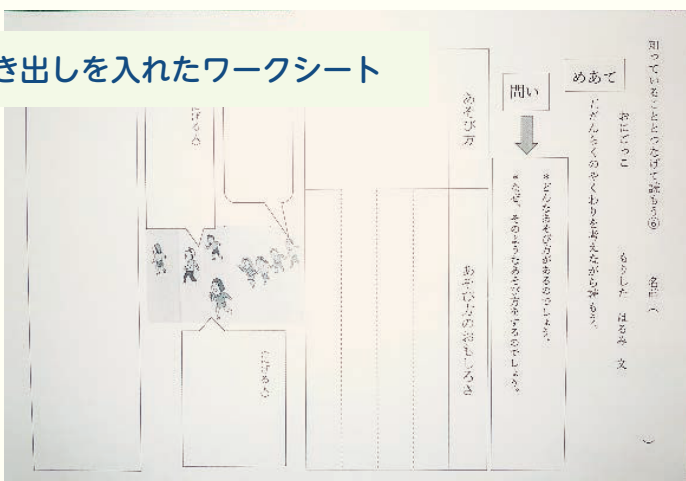
自分がした時のことを想起しながら挿し絵にふき出しを付け加え、本文に返って読み進める活動を行う。

活動のねらい▶ 自分の知っていることや経験したことと関連付けながら読むことで、本文で説明している内容が具体的にどのようなことを表しているのか想像できるようにする。

ここが
ポイント

- ワークシートに、本文の挿し絵の子どもたちがどう言っているかを想像して書く。
- 本文中から、ふき出しの内容と似た言葉を探し、その文章が何を伝えようとしているのかを考える。

ふき出しを入れたワークシート



(期待される児童の姿)

自分の経験を思い出しながら本文を読むことで、内容をより近く感じる。そのようにして読み進めていくに従い、「なぜ様々な遊び方があるのか」という、「まとめ」の部分での筆者の考えについて、本論の部分と関連付けて考えることができるようになる。

第3学年

読むこと①

場面の移り変わりに注意しながら叙述をもとに想像して読み、一人一人の感じ方に違いがあることに気付くこと

つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られませんか？～

伝えたいことを条件に合わせて、まとめて書くことができない。

①思いつくまま長く書き、伝えたいことが伝わりにくい

②まとめることや伝えたいことの要点を絞ることが苦手

③「おもしろかった」等、表面的な感想で満足している

④叙述をそのまま理由として答える

実践の概要

単元名

心にのこったことを、自分の言葉で表そう

『モチモチの木』 光村図書

目標 登場人物の行動や会話から、人物の人柄や気持ちをとらえて読み、心に残ったことを自分の言葉でまとめてポスターに書き入れ、伝え合うことができる。

内容 ・場面ごとに登場人物の人柄や気持ちをとらえ、ワークシートに書いて交流する。
・一番心に残ったことを、ポスターに表す。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

	学習内容 (単元名)	つまずきの実態
第6学年	自分の感じたことを、朗読で表現しよう	作者の思いを読み取るだけになって、自分の経験や思いを関連付けて、読みを深めることができない。
第5学年	説明の仕方の工夫を見つけ、話し合おう	<ul style="list-style-type: none"> 本文をもとに文章の構成・構造をとらえられない。 自分の考えを述べるときに、自分の知識や経験と結び付けながら説明することができない。
第4学年	段落どうしの関係をとらえ、説明の仕方について考えよう	段落相互の関係を考えたり、叙述を自分の経験や知識と関係付けて主体的に読み深めたりできない。
第3学年	心にのこったことを、自分の言葉で表そう	伝えたいことを条件に合わせて、まとめて書くことができない。
第2学年	知っていることとつなげて読もう	長文になると、「問い」に対する「答え」の部分が的確に見分けられない。
第1学年	おはなしのおみせやさんごっこをしよう	自分の経験と結び付けて想像豊かに読み、自分の考えをまとめたり広げたりできない。

単元末の目指す姿

- ・自分の意見を言うとき、根拠となる文を挙げて、そう思った理由を付けて言えるようになる。
- ・自分が一番伝えたい内容を短くまとめて伝えられるようになる。
- ・自分とは違う意見を聞いて、考え方の違いに気付き、より深く考えることができる。

つまづき解消に向けた指導の工夫 ①

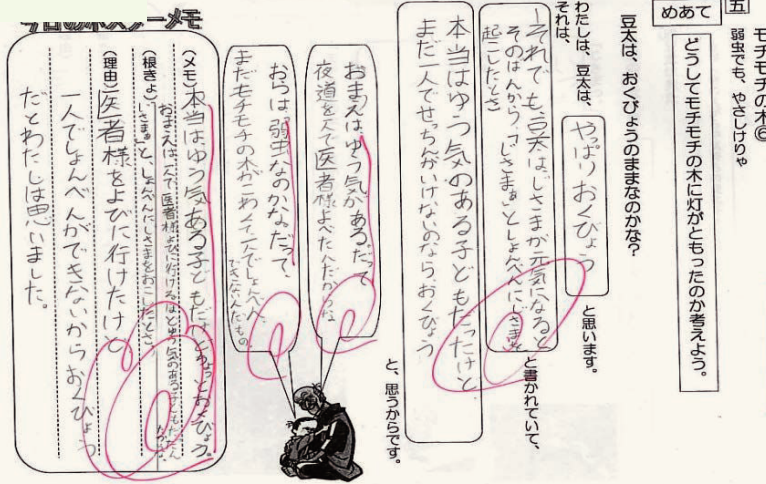
ワークシートに書いて自分の思いを整理させる。

活動のねらい ▶ ワークシートを用いて話す内容を整理する。

ここがポイント

自分の意見に根拠を挙げて話せるように、話す順番通りにワークシートの枠を設定する。そうすることで、自信をもって自分の意見を話すことができる。また、ポスターメモで短く本時の学習をまとめることで、視点を明確にして本時の学習を振り返ることができる。

ポスターメモ



(期待される児童の姿)

話す内容をワークシートに書くことによって、考えを整理することができ、自分の言葉で根拠を挙げて話すことができる。また、ポスターメモとして毎時間のまとめを行うことで短く思いを整理することができる。

つまづき解消に向けた指導の工夫 ②

自分の意見を根拠と理由を挙げて伝える活動を行う。

活動のねらい ▶ 相手にわかりやすく伝えるために、根拠となる文とそう思った理由を付けて伝える。

ここがポイント

- 「勇気がある」「おくびょう」等のキーワードを提示し練り合わせる。
- 最後にまた一人でせっちんに行けなくなっていることから「おくびょう」と答えるなど、表面的な表現にとどまっている場合には、それまでの登場人物の言動を想起させる発問を行い、読みを深めさせる。

授業の様子



僕は、豆太は勇気があると思います。〇〇と書いてあって、おくびょうな豆太が勇気を出したからじさまを助けることができたからです。

(期待される児童の姿)

自分の考えを伝えるとき、根拠となる文を挙げて、そう思った理由を付けて言うようになる。

読むこと①

第4学年

「対比」「まとめ」など段落相互の関係を考え、筆者の工夫に気付き、自分の経験や知識と関連付けて読んだり交流したりし、読みを深め広げること

つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られませんか？～

段落相互の関係を考えたり、叙述を自分の経験や知識と関係付けて主体的に読み深めたりできない。

T：アップとルーズのどちらでテレビを見たいですか？
C：ルーズで見たいです。広い範囲で見えるからです。

叙述から根拠を探すことはできるが、本文にある言葉でしか伝えることができず、自分の経験と結び付けた理由を伝えて説明することができにくい。(抽象的な文中の表現を、具体的な自分の言葉で説明することが難しく、読みが浅い)

実践の概要

単元名

段落どうしの関係をとらえ、説明の仕方について考えよう

『アップとルーズで伝える』光村図書

目標 登場人物の行動や会話から、人物の人柄や気持ちをとらえて読み、心に残ったことを自分の言葉でまとめてポスターに書き入れ、伝え合うことができる。

内容 ・場面ごとに登場人物の人柄や気持ちをとらえ、ワークシートに書いて交流する。
・一番心に残ったことを、ポスターに表す。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

	学習内容 (単元名)	つまずきの実態
第6学年	自分の感じたことを、朗読で表現しよう	作者の思いを読み取るだけになって、自分の経験や思いを関連付けて、読みを深めることができない。
第5学年	説明の仕方の工夫を見つけ、話し合おう	<ul style="list-style-type: none"> 本文をもとに文章の構成・構造をとらえられない。 自分の考えを述べるときに、自分の知識や経験と結び付けながら説明することができない。
第4学年	段落どうしの関係をとらえ、説明の仕方について考えよう	段落相互の関係を考えたり、叙述を自分の経験や知識と関係付けて主体的に読み深めたりできない。
第3学年	心にのこったことを、自分の言葉で表そう	伝えたいことを条件に合わせて、まとめて書くことができない。
第2学年	知っていることとつなげて読もう	長文になると、「問い」に対する「答え」の部分が見分けられない。
第1学年	おはなしのおみせやさんごっこをしよう	自分の経験と結び付けて想像豊かに読み、自分の考えをまとめたり広げたりできない。

単元末の目指す姿

- ・叙述に根拠を求めながら自分の知識や経験と結び付けて理由を言うことができる。
- ・叙述の言葉をより具体化することができる。

つまづき解消に向けた指導の工夫 ①

自分の立場を明確にして、その立場を選んだ理由をワークシートに書き、交流する活動を行う。

活動のねらい▶ キーワードを抽出し、それを根拠に自分の言葉で意見交流できる。

ここが
ポイント

それぞれの立場を選んだ理由を交流することによって、それぞれの具体的な特徴をとらえることができる。出てきた意見を分類しながら板書し、視覚的にとらえやすいようにまとめることで、「対比」に気付くことができる。

授業の様子



私はルーズ派。広い範囲が見えるから。

例えば、背景。どんな場所で行っているか。お客さんはどれくらい知りたい。

広い範囲って？例えば、どんな場面が見たいの？

(期待される児童の姿)

自分の考えを述べることで、経験の中での映像が思い出され、教材文の中だけで終わるのでなく、教材文と自分の経験とを結び付けて読むことができる。

つまづき解消に向けた指導の工夫 ②

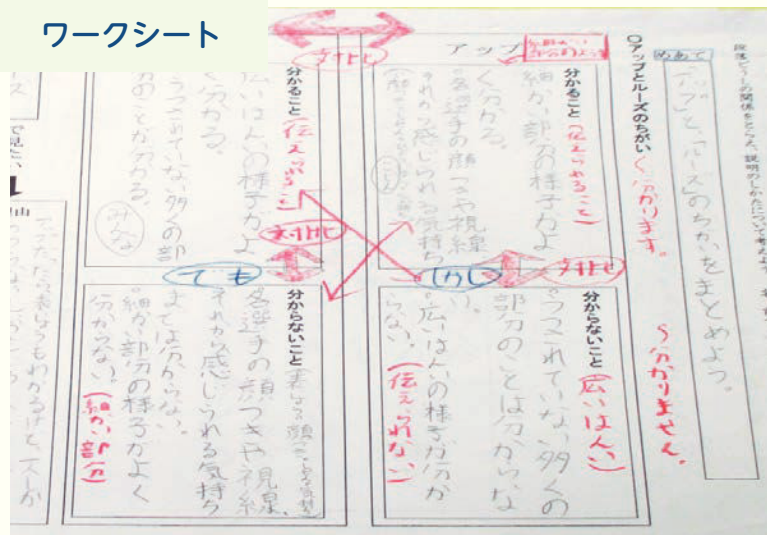
それぞれの立場について、伝えること・伝わらないことを整理して振り返る活動を行う。

活動のねらい▶ 筆者の説明の工夫に気付くことができる。

ここが
ポイント

ワークシートを用いて、それぞれの立場からわかること、わからないことを整理し、それをもとに、筆者が何を伝えたいために、どのような例を示しているのかを考える。

ワークシート



(期待される児童の姿)

ワークシートを活用し、本文からアップとルーズの特徴という情報を取り出し、さらに理由を考えることで、本文の意味を解釈することができる。さらに、内容を把握するだけにとどまらず、わかりやすく伝えようとする筆者の意図に気付かせることができる。

第5学年

読むこと①

要旨や、事実と感想、意見などとの関係をおさえ、自分の考えを明確にしながら読み、本や文章を読んで考えたことについて、自分の考えを広げたり深めたりすること

つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られますか？～

- ①本文をもとに文章の構成・構造をとらえられない。
- ②自分の考えを述べるときに、自分の知識や経験と結び付けながら説明することができない。

1

T：「生き物は円柱形」は双括型？尾括型？
C：「尾括型。筆者の主張は最後にあると4年生で学んだから。」
→明確な理由もなく、文や文章の構成・構造を曖昧にとらえている。

2

T：「なぜ『例外』をあえて説明文に書いたの？」
C：「例外を書くことで、説得力が高まると思うから。」
→自分の主張を、知識や経験と関連付けて説明することができていない。

実践の概要

単元名

説明の仕方の工夫を見つけ、話し合おう

『天気を予想する』光村図書

目標 筆者が用いた説明文の説明の仕方の工夫について、本文を根拠に考えをもち、自分の経験と結び付けながら考えを深めることができる。

- 内容**
- ・全文を意味段落に分け、構成の工夫を読み取る。
 - ・問いと答えの順序に仕組まれた構造の工夫を読み取る。
 - ・読み取った構成・構造の工夫を根拠に文章構成図を考える。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

	学習内容（単元名）	つまずきの実態
第6学年	自分の感じたことを、朗読で表現しよう	作者の思いを読み取るだけになって、自分の経験や思いを関連付けて、読みを深めることができない。
第5学年	説明の仕方の工夫を見つけ、話し合おう	<ul style="list-style-type: none"> ・本文をもとに文章の構成・構造をとらえられない。 ・自分の考えを述べるときに、自分の知識や経験と結び付けながら説明することができない。
第4学年	段落どうしの関係をとらえ、説明の仕方について考えよう	段落相互の関係を考えたり、叙述を自分の経験や知識と関係付けて主体的に読み深めたりできない。
第3学年	心にのこったことを、自分の言葉で表そう	伝えたいことを条件に合わせて、まとめて書くことができない。
第2学年	知っていることとつなげて読もう	長文になると、「問い」に対する「答え」の部分が見分けられない。
第1学年	おはなしのおみせやさんごっこをしよう	自分の経験と結び付けて想像豊かに読み、自分の考えをまとめたり広げたりできない。

単元末の目指す姿

- ・本文のキーワードやキーセンテンスをもとに、説明的な文章の構成や構造を考えることができるようになる。
- ・学習課題について主体的に考え、知識や経験と結び付けて筆者の主張を自分の言葉で説明することができるようになる。

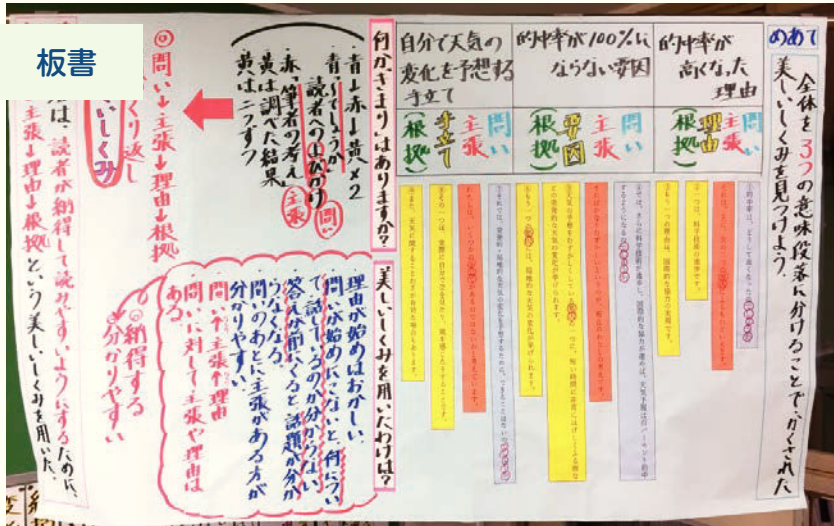
つまづき解消に向けた指導の工夫 ①

発問、板書に結び付けたワークシートを用意する。

活動のねらい ▶ ワークシートに自分の考えを整理し、それが板書とつながることで、授業の内容を理解することができる。

ここがポイント

発問とワークシート、そして板書の3つがつながることで、児童は自分の考えを整理しやすくなる。本文を同じようにワークシートにも引用したり、児童が意見を書く場所を同じにしたりする。



(期待される児童の姿)

本文の、問い・主張・理由（青・赤・黄）にサイドラインを引き、板書にも同じ色の短冊を用意し並べることで、構成の工夫に視覚的に気付くことができる。そのため、明確な理由をもって自分の考えを主張することができる。

つまづき解消に向けた指導の工夫 ②

★深い学びにつながる実践

主発問で考えさせたことを、さらに深める補助発問を工夫する。

活動のねらい ▶ 全体で出された意見をもとに自分の考えを見つめ直し、考えを深めることができる。

ここがポイント

- 確認させる発問を、「自分だったら…」と考えられる発問にすることで自然と説明文に対する自分の考えをもち、表現できるようになる。
- 児童の発言から出てきた言葉をつかい、吟味（AかBかで考える）させる発問をすることで、練り合い、考えを深められるようにする。

授業の様子



僕は、意味段落の順序を入れ替えてはいけないと思います。理由は、前の話につながりながら問いが生まれているからです。的中率が上がってきた、じゃあ100%になるのかな？と読者が思うように意味段落が並んでいます。

僕が納得したところは、自分で空を見、風を感じる事が大切だという筆者の主張です。理由は、理科の実験でも、実際に空を見たり雲の量を見たりして天気を予想することができたからです。

(期待される児童の姿)

教材文に対する自分の考えを説明するために、自分の経験と関連付けて考えたり、全体で出された意見をもとに自分の考えを見つめ直したりするなど、深い学びにつながる事ができる。

第6学年

読むこと①

登場人物の相互関係や心情、場面についての変化を読み、本や文章を読んで考えたことについて、自分の考えを広げたり深めたりすること

つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られませんか？～

作者の思いを読み取るだけになって、自分の経験や思いを関連付けて、読みを深めることができない。

宮沢賢治さんが「やまなし」で伝えたかったことは、苦しみの中、つらい中にも楽しみはあることだと思う。なぜなら、五月ではかわせみがいきなり飛びこんできて怖い思いをしたけど、十二月ではやまなしが落ちてきて怖い気持ちから幸せな気持ちになっている。だから、五月で苦しい思いをしたけど、十二月では幸せになっているので、苦しい中にも幸せがあるという思いを「やまなし」で伝えたかったと思います。

- ○ 作者の思いについて、読み取りまとめることはできている。
△ 自分の経験や考えの関連付けがなく、主体的に読み深めていない。

実践の概要

単元名

自分の感じたことを、朗読で表現しよう

『やまなし』光村図書

目標 宮沢賢治の生き方や考え方を知り、「やまなし」に込められた思いを読み取るとともに、宮沢賢治の比喻や反復などの表現の工夫や対比をとらえ、伝えたいことを読み取り、自分の考えをまとめて朗読で表現することができる。

内容

- 宮沢賢治の生き方や考え方を知る。
- 「五月」と「十二月」の場面を読み、場面を比べながら「やまなし」の役割を考える。
- 作者が「やまなし」で伝えたかったことを考える。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

	学習内容（単元名）	つまずきの実態
第6学年	自分の感じたことを、朗読で表現しよう	作者の思いを読み取るだけになって、自分の経験や思いを関連付けて、読みを深めることができない。
第5学年	説明の仕方の工夫を見つけ、話し合おう	<ul style="list-style-type: none"> 本文をもとに文章の構成・構造をとらえられない。 自分の考えを述べるときに、自分の知識や経験と結び付けながら説明することができない。
第4学年	段落どうしの関係をとらえ、説明の仕方について考えよう	段落相互の関係を考えたり、叙述を自分の経験や知識と関係付けて主体的に読み深めたりできない。
第3学年	心にのこったことを、自分の言葉で表そう	伝えたいことを条件に合わせて、まとめて書くことができない。
第2学年	知っていることとつなげて読もう	長文になると、「問い」に対する「答え」の部分が的確に見分けられない。
第1学年	おはなしのおみせやさんごっこをしよう	自分の経験と結び付けて想像豊かに読み、自分の考えをまとめたり広げたりできない。

単元末の目指す姿

- 作者の考え方や作品の内容を照らし合わせて考えることができるようになる。
- 作者が伝えたいことを読み取ることができると、自分の経験や思いを関連付けてまとめることができるようになる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ①

それぞれの場面に題名を付ける活動を取り入れる。

活動のねらい▶ 描写に込められた筆者の思いを考えることができ、読みの深まりにつながる。

ここがポイント

- 作品に込められた宮沢賢治の思いを読み取るために、作者について調べ学習をしたり、資料(「イーハトーヴの夢」)をしっかりと読み込んだりして、作者の生き方や考え方を知る活動を行う。
- 題名に込めた自分の考えや、その根拠も示すように指示する。

授業の様子



五月の苦しさというのは、妹トシの死や災害にあった賢治さんの苦しい経験で、十二月は農作物の収穫のような楽しみを書き表している。人生を表している。

五月と十二月を対比させていて、十二月の場面でやまなしが落ちてきて、かこの親子が希望をもつことができました。賢治さんは、「苦しみの中にも楽しみがある」という考えをこの作品に込めていると思います。

(期待される児童の姿)
登場人物の気持ちや情景の変化をとらえるだけでなく、作者の思いを考えた意見が出るようになる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ②

作品から読み取ったことと自分の考えを区別して、まとめさせる。

活動のねらい▶ 作品の感想だけでなく、自分の経験や思いも含めたまとめをすることができる。

ワークシート

ここがポイント

ワークシートでは、文字数を200字以内に設定して、「作者が作品に込めた思い」と「自分の経験や考え」を区別して書かせるようにする。

(期待される児童の姿)

作品に対する感想で終わらずに、作者の思いから、自分に返って、学習のまとめをすることができるようになる。また、自分の経験や考えと関連付けて、書くことができる。

